奨学金受給者からの感謝の声

奨学金を受給した学生から、ご支援をいただきました皆さまに感謝の声が届いています。

【家計急変学生支援奨学金　受給者の声】

私は中学生の時母を病気で亡くし、父子家庭で育ちました。そして、大学３年後期、残された父をも病気で亡くしました。もともと日本学生支援機構の貸与型奨学金を借りておりましたが、それだけでは、生活費と学費を賄うことができませんでした。両親不在、金銭的困窮の中、今後の人生を左右する就職活動の時期でもあったため、アルバイトも頻繁に行うことはできず、学費の支払いに困っていました。そんなとき、学校に相談を持ちかけたところ、「家計急変奨学金」の存在を知り、受給させていただきました。金銭的負担が減り、就職活動にも専念することができたので、大変満足な活動ができました。

これからは残りの学生生活を社会に出るための準備段階と定め、会計と英語の勉強に全力を注ぎたいと思っています。当奨学金がなければ、私の学生生活継続は困難だったと思います。ご支援に大変感謝いたします。

私は 2013 年度秋学期に法政大学家計急変学生支援奨学金を頂きました。前年春学期の期末試験を目前に、個人病院を経営していた父親が急に脳梗塞で倒れました。私にとってヒーローだった父親が四肢麻痺で入院している姿を見て、最初は涙が止まりませんでした。日本に戻った後、一緒に留学していた弟を軍隊に入隊させて、私はアルバイトを掛け持ちで始めました。就職活動を始めても心に不安がありましたが、学校から家計急変奨学金を頂いたおかげで集中して頑張ることができました。

卒業後は外資系の不動産投資会社に勤めることになります。社会人になっても学業を続けられるように助けてくださった方々に恩返しする気持ちで、社会を豊かにする人になりたいと思います。

私は母子家庭で一人っ子だったため、母と二人暮らしでした。その母を突然の病死により失い、頼る当てもなく一時は在学を諦めかけました。しかし、大学で学ぶ望みを捨てきれず、なにか方法はないかと模索していたとき、この家計急変奨学金を見つけ、採用していただいたことにより現在大学に通うことができています。もちろん、学業と仕事の両立は極めて厳しいものの、この奨学金の存在がなければ学業そのものを諦めざるをえなかったことを考えると、家計急変奨学金の価値はお金以上のものがあるように感じます。今後はこの感謝を胸に、学ぶことのできる今を一生懸命過ごしていきたいと考えています。

父が急に倒れました。その時は、父が仕事を出来なくなるということまで考えていませんでした。

私は上京して一人暮らしの身です。日本学生支援機構の奨学金の援助を受け、生活しています。今回「家計急変学生支援奨学金」を受けることができとても助かりました。一時期は、学業よりアルバイトを優先させることを考えていましたが、授業料の半額にあたる奨学金は学業を優先できる十分な給付だと感じました。給付を受けての秋学期では、例年と変わらず勉強にも集中でき、単位も落とすことなく卒業見込みまで進むことができました。

父は高次機能障害を患い、仕事ができなくなりました。家計急変は何時何が原因で起こるか分かりません。今回私がこの奨学金の存在を知ったのは母が学校に相談したことがきっかけです。相談できずに諦めていたら学校を辞めるという決断もあった中、この奨学金に出会い、そして受給することが出来て、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今年に入り就職活動を行い、無事内定をいただくことができました。働いて何かしらで貢献できればと考えています。

法政大学家計急変奨学金の給付を受けて、私は大学を退学することなく進級することができました。アルバイトも続けておりますし、その他の奨学金制度も利用させていただいておりますが、自分の趣味などにもある程度のアルバイトのお金を回せるようになり、アルバイトだけではなく勉学も怠らずに励み、楽しく前向きな気持ちを持って大学に通わせていただいております。

今後、家計急変に伴う奨学金がより一層充実して、私のように家計が厳しく退学まで考えている学生の多くが、明るく前向きに学生生活を送れるようになってほしいと思っています。

この度は法政大学家計急変奨学金に採用していただき、誠にありがとうございます。頂いた奨学金は学費や生活費として大切に使わせていただきたく思います。

2013 年の６月に父が失業し、経済的な余裕が無くなり、日本学生支援機構の奨学金だけでは足りなくなってしまったため、本奨学金を申請させて頂きました。現在４年生になり、研究室に所属しました。同じ分野に興味を持つ研究室の仲間とともに研究に励み、卒業研究において満足のいく成果を挙げたいと思っています。また、勉学を進めていくうちに、今以上に幅広い知識・教養を取得したいと考えるようになり、大学院への進学を決めました。進学の道を選ぶことができたのは、奨学金の給付があったからです。本当にありがとうございました。

【団体スポーツ奨励金　受給者の声】

○体育会野球部からのメッセージ

2009 年度、2012 年度と二度にわたってスポーツ奨励金を給付いただきまして誠にありがとうございます。給付いただきました奨励金は用具費やキャンプ費、及び部の運営費用として使用させていただいております。昨年度は夏季には北海道、春季には沖縄という新たな地でのキャンプも行うことができました。このような皆様からの温かいご支援のおかげで、野球部は素晴らしい環境の下で不自由なく活動できておりますこと、改めてお礼申し上げます。

6 月に閉幕致しました春季リーグ戦では、開幕から早大に 2 連敗、その後立大に連勝し勝ち点を挙げたものの、明大に１勝２敗、慶大に２連敗と、続けて勝ち点を奪われ優勝戦線から離脱してしまいました。最終週東大には快勝し勝ち点を挙げることができましたが、５位という不本意な結果に終わりました。皆様のご期待に応えることが出来ず、非常に悔しい課題の残るシーズンとなりました。

現在、野球部は東京六大学野球秋季リーグ戦に向けまして、個々のさらなるレベルアップ、そしてチームの統率力を高めるため、監督、助監督の厳しい指導の下、『奪取』～オレンジを胸に～というスローガンを掲げ日々練習に励んでおります。この春には、安全面を考慮しグラウンドの改築工事も行い、より一層整った環境で充実した練習を行えております。

また、法政大学の中でも特に長い歴史を誇る野球部は、2015 年度に創部 100 周年という節目の年を迎えます。これまでの先輩方が築き上げてくださった 44 回という東京六大学野球最多優勝記録を更新し、100 周年を良い形で迎える為にも、秋こそ必ず天皇杯奪取、そして大学日本一を勝ち取ります。春季リーグ戦の結果をしっかりと受け止め、ますます身を引き締めて選手・スタッフ一丸となって戦っていきたいと思います。

今後とも変わらぬご声援の程、よろしくお願い致します。

○体育会バドミントン部からのメッセージ

法政大学体育会バドミントン部は昭和 23 年に創設され、これまでに全日本学生選手権優勝など数多くのタイトルを獲得し、安定した技量を保持し学生界を主導してきました。また、学生界を主導するに留まらず、日本を代表するオリンピック選手など数多くの名プレーヤーを輩出してきました。近年は女子部を創設、昨年は関東学生春季リーグ戦・東日本学生選手権・関東大学秋季リーグ戦・全日本学生選手権において 4 冠を獲得し、男子女子共に学生界を主導する部であります。

これまで安定した成績・技量を保持してこれたのは、ＯＢＯＧや監督・コーチ等の指導、また、日々の努力の成果でもありますが、大学ならびに体育会後援会、ＯＢＯＧ会、その他関係各位からの資金援助なくしては成り立たなかったのも事実です。

バドミントンというスポーツはスポーツ界においてーニを争うほど体力を消耗する激しいスポーツでありますが、併せてラケット・ガット・シューズ、そしてシャトルコックなどの器具類も著しく消耗が激しいスポーツでもあります。中でもシャトルコックは単価も高額であり、かつ消費する量も多く、シャトルコックを調達するうえでは資金の工面も苦労しておりました。そのような環境のなかで団体スポーツ奨励金によりシャトルコックを購入できたおかげで、質の高い練習が可能となり、技術も高めることができました。

学費と併せてバドミントンの競技力を高めるための費用を工面するなかで、このような団体スポーツ奨励金制度は非常にありがたいことであり、ご寄付をしていただきました皆様には非常に感謝しております。厚く御礼申し上げます。

これからも競技力の向上・強化だけではなく、挨拶礼儀は当然のことながら目標に向かって協力し合うこと、助け合うことなど大学スポーツ、バドミントンを通じて人間性を高め、社会へ貢献できるような人間を育成できるように精励する所存です。